第３章

３つの戦略

１．３つの戦略概要 P 20

２．戦略１「観光産業の確立」に向けた体制づくり P 21

３．戦略２“心のふるさと”を目指した魅力づくり P 22

４．戦略３歴史・文化を核にしたまちづくり P 23

1 ３つの戦略概要

これまでの取組や成果を踏襲しつつ、社会経済などの情勢変化に柔軟に対応しながら、「**住んでよし、訪れてよし、担ってよし　持続可能な観光地域づくり**」に向けて持続可能な観光の基本理念に基づき、「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」に取り組み、文化観光地域づくりを推進していきます。

あわせて、「日本遺産に関連する商品の消費額の向上」と、「日本遺産を誇りに思う住民の割合の向上」を主要な KGI として掲げます。これらの指標は、地域内での消費促進を通じた観光産業の確立、雇用拡大、地域資源の保全に寄与するとともに、住民の主体的な参画や地域への愛着の醸成を測る重要な要素であり、持続可能な地域づくりに不可欠なものです。こうした経済的・社会的な側面から観光の好循環を創出し、地域の総合的な活力向上を図ります。その中で、現状の課題解消に向け、３つの戦略を基に取組を推進していきます。

これまでの取組（第2次明和町観光振興計画）

基本方針

- 「おもてなし」の環境づくり
- 「きてもらう」「滞在してもらう」環境づくり
- 行政、民間、学校などとの「連携」を行う環境づくり

取組

①連携による地域活性化
②史跡斎宮跡の活用
③魅力的な資源の活用
④空き家等の活用によるにぎわい創出
⑤郷土愛の醸成による「おもてなし力」強化

課題

- **課題1** 中長期的な観光ビジョンと、成果評価・改善の仕組みづくり
- **課題2** 観光による地域経済への効果が可視化されていない
- **課題3** 地域資源に対する住民の認知・関心・誇りの希薄化
- **課題4** 情報発信力の弱さと観光コンテンツの認知不足

今後の戦略と目標

戦略1
「観光産業の確立」に向けた体制づくり
観光産業における地域内での経済効果の可視化を図るための体制を整えます。また多様な分野との連携を強化し、観光が地域経済を支える仕組みを整備していきます。

戦略2
“心のふるさと”を目指した魅力づくり
来訪者や地域住民が感動や学びを得られるようにする場を創出していくため、地域資源を活かした「体験型観光」を充実させ、地域の誇りを育みます。

戦略3
歴史・文化を核にしたまちづくり
明和町ならではの歴史・文化資源を基盤に、町全体の魅力を高め、住民と観光客の双方が誇りを持てる地域づくりを推進していきます。

日本遺産関連消費額
R12年度
令和6年度 9億円（推定） → 20億円

日本遺産を誇りと思う方の割合
R12年度
令和5年度 66% → 75%

2 戦略1　「観光産業の確立」に向けた体制づくり

観光を地域の持続的な成長を支える産業として確立するため、行政、観光事業者、地域住民、教育機関など、多様な分野との共創と連携を強化します。また、観光DX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進し、デジタル技術を活用したデータ分析による観光戦略の高度化を図り、効率的で持続可能な観光経営基盤の確立を目指します。

基本方針

1-① 多様な分野との共創・連携の強化

行政、地域住民、観光事業者、教育機関、企業などが協力し、観光を通じた地域課題の解決や新たな産業・文化の創出を目指し、分野横断的な協働体制を強化します。また効果的な広域連携を図りエリア全体での効果発揮を図ります。

◆ 現状

地域内外の主体が限られた形でしか連携できておらず、観光の価値創出や地域課題解決の機会が十分に活かされていません。

◆ 課題

観光を地域の総合産業として捉え、行政・住民・事業者・教育機関・企業が横断的に連携する体制が不十分です。

◆ 対応方針

- ▶ 地域内で経済が循環するしくみづくり
- ▶ 観光産業をけん引する機能の強化と役割の明確化
- ▶ 空き家や公有地・耕作放棄地・遊休農地などの活用
- ▶ 新たな産業の創出につなげる分野横断的協働を推進

1-② 持続的な誘客を生み出す仕組みづくり

史跡や文化、食、体験など地域ならではの資源を磨き上げ、周遊ルートや滞在型観光商品を提供します。インバウンドをはじめ、国内外からの誘客を促し、地区や季節による観光客の平準化や地域内消費を高めて経済活性化を図ります。

◆ 現状

地域資源を活かした観光商品や周遊ルートの整備は限定的で、滞在型観光や再訪の促進が十分ではありません。

◆ 課題

国内外からの誘客や地域内消費の拡大に向けた仕組みが十分に整っていません。

◆ 対応方針

- ▶ 他地域と連携した広域観光の推進
- ▶ 史跡・文化・食・体験を活かした観光商品を整備
- ▶ 滞在型観光や再訪促進を通じ、国内外からの誘客を強化
- ▶ 地域内消費の拡大と経済活性化につなげる施策を展開

1-③ 観光DXによるデータ活用と効率性向上

デジタル技術を活用し、入込客数や消費動向を分析します。その結果をオーバーツーリズムの未然対策をはじめとする観光施策などに活かし、安心・安全、利便性・満足度の向上と地域事業者のデジタル化を推進します。

◆ 現状

観光データの収集や分析が限定的で、施策評価や混雑緩和に十分活用できていません。

◆ 課題

デジタル技術を活用した観光サービスや地域内のデジタル化が不十分です。

◆ 対応方針

- ▶ 消費動向などデータ収集と分析によるサービスの向上
- ▶ AI技術に対応した観光サイトなどの強化による利便性向上
- ▶ 地域事業者のデジタル化を支援し、持続可能で競争力ある観光地域づくり

3 戦略2　“心のふるさと”を目指した魅力づくり

訪れる人に「また来たい」と思われ、町民にとっても誇りとなる「心のふるさと」を目指します。自然や食、暮らし、人のつながりなど、明和町ならではの地域資源を磨き上げ、体験型・交流型の観光コンテンツを充実させます。また、来訪者と地域が心でつながる感動体験を創出することで、地域全体の魅力とブランド力の向上を図ります。

基本方針

2-① 人材育成と継承環境の整備

地域ガイドや体験提供者を育成し、学校や地域団体と連携して若者の参加を促します。地域の歴史や文化を正しく理解し、次世代へ伝える担い手づくりを進め、持続可能な観光地域を形成します

◆ 現状

ガイドや体験提供者の担い手は限られており、若年層の参画も十分ではありません。

◆ 課題

地域の歴史や文化を次世代に継承する人材育成の仕組みが不十分です。

◆ 対応方針

- ▶ ガイドや体験提供者を育成し、地域資源を次世代に継承
- ▶ 学校や地域団体と連携し、若者の参加や地域理解を促進
- ▶ 地域の歴史・文化を正しく伝え、持続可能な観光地域の形成を支援

2-② 地域資源を活かした体験・交流の創出

日本遺産を中心とした歴史・文化体験や食・自然・暮らしを組み合わせた体験プログラムを提供します。現地で学びと感動を伴う観光体験で周遊・滞在を促し、地域の魅力を実感してもらいます。

◆ 現状

体験プログラムや周遊ルートが限定的で、学びや感動を伴う観光体験の機会が少ない状況です。

◆ 課題

地域の魅力を総合的に活かした体験型観光や滞在促進の仕組みが不足しています。

◆ 対応方針

- ▶ 文化財や自然・食・暮らしを活かした体験型観光の提供
- ▶ 伊勢街道の活用等による滞在型観光の仕組みを整備
- ▶ 農泊、民泊、ホームステイ等新たな交流市場の創出
- ▶ 国内外の観光客に向けた魅力的な体験を創出

2-③ 郷土への理解を深める学びの推進

子どもや若者が地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供します。住民や来訪者も文化財や地域資源の価値を共有し、守り・伝える意識を高める取組を推進します。

◆ 現状

地域理解や郷土愛を育む学習機会は限定的です。令和7年度からは郷土学習カリキュラム「めいわ楽習」に取組始めています。

◆ 課題

文化財や地域資源の価値を住民や来訪者が共有し、守り、継承していく意識を高める取組が不足しています。

◆ 対応方針

- ▶ 地域課題と結びつけた「学びと貢献型観光」の創出
- ▶ 文化財や資源の価値を理解し守る意識を醸成
- ▶ 「めいわ楽習」を軸にした地域の学校と連携した地域資源学びの場づくり

4 戦略3　歴史・文化を核にしたまちづくり

日本遺産をはじめとする、歴史・文化資源を観光の核として位置づけ、保全と活用を両立したまちづくりを推進します。歴史・文化を生かした学びや体験の機会を創出し、教育・観光・地域活動が連携する取り組みを展開します。町全体が歴史の香る空間として発展するよう、文化的景観やイベントの整備を進め、地域の誇りと魅力を未来へと継承します。

基本方針

3-① 地域ブランド力向上と価値の発信

歴史・文化・自然・人の魅力を総合的に整理し、「明和町らしさ」として情報発信します。来訪者や住民が誇りや愛着を持てる地域イメージを形成し、観光・産業・伝統・暮らしをつなげて地域ブランド価値を高めます。

◆ 現状

地域の魅力の整理やブランド化が十分でなく、情報発信に一貫性がありません。

◆ 課題

「明和町らしさ」を体系的に伝える仕組みが不足しています。

◆ 対応方針

- ▶ 歴史・文化・自然・人の魅力を整理したブランド戦略
- ▶ 観光・産業・伝統・暮らしをつなげて地域価値を向上
- ▶ 来訪者や住民が誇りを持てる地域イメージを形成

3-② 戦略的な情報の発信と強化

SNSやWEB、映像やストーリー性ある素材を活用し、国内外のターゲットに応じた情報発信を行います。情報発信体制を整備し、一貫性と信頼性のある広報で誘客と関係人口の拡大を目指します。

◆ 現状

情報発信は分散しており、国内外のターゲットへの効果的なアプローチが不足しています。

◆ 課題

広報素材や情報発信体制の整備が不十分で、誘客や関係人口の拡大に十分活かせていません。

◆ 対応方針

- ▶ 多様性を意識した映像・ストーリー性ある情報発信
- ▶ 一貫性と信頼性のある広報体制を整備
- ▶ 国内外のターゲットに向けた誘客戦略
- ▶ 地域情報の定期発信

3-③ 歴史・文化資源の保全と活用の促進

文化財や伝統行事を学びや体験として活用し、次世代に継承します。展示や体験プログラムを充実させ、文化を軸としたまちづくりや観光との連携で、持続可能な地域づくりを推進します。

◆ 現状

文化財や伝統行事の保存と活用のバランスが十分ではなく、観光資源として十分に活かせていません。

◆ 課題

次世代への継承や来訪者への魅力伝達の仕組みが不十分です。

◆ 対応方針

- ▶ 文化観光、歴史まちづくりを推進するインフラ整備
- ▶ 歴史的建造物や景観の保護と活用
- ▶ 文化財や伝統行事を学び・体験型観光として活用
- ▶ 展示や体験プログラムの充実等による、保存と活用の両立